

令和2年度 第3回庄内町振興審議会 会議録

- 1 開催日時 令和3年3月24日(水) 18時30分～20時14分
 - 2 開催場所 役場 B棟2階 会議室2
 - 3 出席委員 梅木均、海藤喜久男、吉田勝紀、斉藤徹史、佐藤道子、加藤容、佐藤あゆ子、長南久良、高橋義夫、渡會正、佐藤正義
 - 4 欠席委員 加藤修一、田澤富雄、石井範子、大滝正博
 - 5 事務局 課長、課長補佐兼企画調整係長、岡本主任
-

1 開 会 (18:30)

2 会長あいさつ

久しぶりにお会いできてうれしいです。本日酒田市でもコロナ感染者が出たようです。本来であれば2時間程度の会議でしたが本日は1時間で終了するよう進行させていただきたいと思います。また、本日の資料は既に送付されているので詳細の説明は省略していきますのでよろしくお願い致します。

3 諮問

- ・第2期庄内町まち・ひと・しごと創生事業の効果の検証について
課長⇒会長

4 報告事項等

(1) 資料確認、本日の日程について

阿部補佐

本来であれば3回程度開催している会議だが、コロナ禍ということもあり先に資料を送付し書面で意見をいただく形とさせてもらった。昨年3月に答申いただいた第1期の5つの事項について担当部署から確認した進捗を報告し、委員の皆様からご意見をいただいたものである。それに基づいてA4の資料「答申案」を作成した。赤字は第2期に入っていない項目のため削除し、青字を追加した。

5 協 議

(1) 第2期庄内町まち・ひと・しごと創生事業の効果の検証について

以下、会議録

【会 長】A3の資料を1～2分ご覧ください。その後、これに対する意見や補足をご発言ください。

(1) についてご意見・補足はありますか。なければ私の方から。庄内空港の利便性向上に

と滞在型観光についてはコロナが収まってから再開するイメージか。

【事務局】 昨年から滞っている状況。事業は来年度で終了するもの。来年度充実したものができかどうかははっきりわからない現状。

【事務局】 (2) についてご意見があったので補足説明したい。庄内総合高校支援については、支援のあり方の見直しを行っているところ。通信制等も始まることから、4月以降に学校側とどのような支援が考えられるかを相談する予定。具体的には今年の夏頃を目途に検討したいと考えている。生徒の活動に対する支援に重点を置く方向に持っていきたい。

(3) について、ハウス団地構想は事業としてまったくないわけではなく、農林課再度で継続している。第2期からKPI設定がないというだけです。

【高橋義夫委員】 ハウス団地について意見したいと思っておりましたが、事前に提出していなかったため発言したい。若手が大きい施設でやりたいと思っているようだ。我々は遠くまで行って団地で栽培するのは難しいが、若手はやりたい人もいるようなので、町の方で支援していただければと思う。新規農業者の他に移住して農業をやりたいという人も含めて農業に参加できるような方策を構築していただきたい。

【事務局】 担当課に伝えます。

【会長】 (4) について1~2分内容をご確認ください。ご意見・補足等ありましたらご発言ください。

【佐藤あゆ子委員】 北月山荘や清川歴史公園、風車村等体験型観光メニューの開発に努めているとあるが、役場の担当部署が離れている。立川総合支所とクラッセ等、物質的な距離もあり連絡調整や意思疎通、同じ目標に向かっていくことへの滞りや誤解がないようになっているのか疑問に思う。他の項目でも「課をまたいで連携」というのがあるが、この項目についてもそれが言えると思う。

【事務局】 確かに現在業務が複数の課で実施している。昨年はコロナ禍だったこともありオンラインを利用する機会が増えた。壁を超える機会にはなったが、「同じ方向」を間違えないようにいかないと本当の意味での壁を越えた連携ができない。担当課に申し伝える。

【海藤喜久男委員】 若手生産者や新規就農者の掘り起こし等、必要に応じてプロジェクトチームの検討も視野に入れながらという文言では弱すぎる。「視野に入れながら」というゆるい考え方では結果が出てこない。何とか形にしようという強い思いがないとなかなか進まない。成功させるのだという強い思いで取り組んでいただきたい。

【事務局】 担当課に申し伝えるが、特産品開発については農林課だけでなく、商工観光課なども関わってくる可能性もあるため、役場だけに限らずプロジェクトチームを立ち上げて具体的に進めていくことがこれからの課題と感じている。

【海藤喜久男委員】 最初から広く動き出すとうまくいかないこともある。まずはできるところから小さく始めることが実現につながるのではないか。

【吉田勝紀委員】 答申に「先進地事例を参考にして」という言葉が入っているが、令和2年度はどこか参考にしたところはあるか。何か進捗はあるか。要は「勉強してください」ということだが、何か進捗はあるか。

【事務局】 オンラインで実施しているようではあるが。

【佐藤正義委員】 やっていないのでは。答申に対して先進地視察について触れていないのでやっていないということでしょう。

【吉田勝紀委員】本気でやりたいのであれば具体的に動くべき。

【事務局】6次産業化に関してはブラッシュアップ講座等外部講師を招いて実施している。

【長南久良委員】ハンデがあればあるほどサービスを盛り上げていかないと誘客にならないと思った。空き店舗については貸す気があるのか値段がわからないものもある。金額や連絡先など表示して明確にした方がよい。

【梅木均委員】1-3-2の稼げる観光づくりの宿泊施設とはどこのことか。

【佐藤あゆ子委員】旅籠屋という全国チェーンのホテルで香林塔の裏にできるもの。

【梅木均委員】観光の拠点となる地域を分散している。道の駅、役場、立川総合支所の利活用など拠点となるところが分散していてアンテナ的なところがないのが問題では。人を集めるのはイベント産業が主になる。各部署で横断的に連携し合ってイベントを作っているものがないのではと感じる。プロジェクトチームと言っているが、庄内町観光プロジェクトチームの計画書というのを作ってみたいかがかと思う。いろいろな部署の人、若い人も含めて観光を見直しては。また、「身の丈に合った」「ささやかな」観光というのはないのか。ソフトな面と一般的な観光事業を分けて考える必要があるのではないか。または取り入れながら考えては。若い人たちに計画書を作ってもらって盛り上げてもらいたい。

【佐藤正義委員】ホテルについては、町でも3,000万円の助成を出している。滞在型観光メニューを考えるということも示されている。

【佐藤あゆ子委員】道の駅を平日通ることがあるが、お昼の時間帯に駐車場がいっぱいになるほど人がいる。食堂もおいしくて盛りがいいようで男性客もたくさんいらっしゃる。今後バイパス化による影響を心配している。

プロジェクトチームについては、堅苦しくなく腰を軽くして「本気でやる」と考えればコロナ禍でもできることはたくさんある。いいものを共同購入して分け合っている。欲しいものはネットで購入できる時代。民間の方、農家の方が個人的になっていることを勉強することも必要ではないか。ポケまるマルシェはネットで購入できる産直システム。そのようなものを取り入れてもいいと思う。風車市場に行くと、その日に入った新鮮な野菜等を東京の娘に送っているというお母さんもいた。会議など堅苦しくすると機動力が下がるため、もっと軽いスピーディーな方法で実践していった方が実現への近道になる。いろいろなメニューを開発すれば明るい兆しになるではないか。

【会 長】次に(5)について事前には特にご意見はなかったようだがいかがか。特にないようなので、最後に答申案について議論いただきたい。(1)について、各課横断的にという文言について追記する必要はないか。(4)については若者プロジェクトという文言も入れられると思われるがいかがか。

【佐藤道子委員】先進地事例を参考にすることについて、実際行かなくても情報は得られると思うのでこの文言は入れてもよいと思う。「先進地事例を」と限定してしまうと他のことが入れなくなるため「先進地事例も」という文言に変えては。

【吉田勝紀委員】先進地事例の調査については、今年できていないのであればまた入れる必要があると思う。(3)については開発するにあたりプロジェクトチームを作るとという言葉にしてもよいのでは。役場に今プロジェクトチームはあるか。実現は可能か。

【事務局】現在はないと思われる。役場の中だけであれば難しくはないが、若者も入れるとなると一般の方からも参加していただくプロジェクトになるのかなと受け取ったがそのような感

じか。

【梅木均委員】 そのための「核」となるプロジェクトチームと考えている。

【佐藤道子委員】 今の意見をまとめて答申案を事務局で作ってもらうこととしていかがか。

【海藤喜久男委員】 空き家について、今後有効活用していかないと傷むわけなのでそうならないよう正確な情報を仕入れて発信していく必要があるのでは。庄内町には既にあるのか。

【事務局】 ホームページ上で物件情報を配信している。一般の空き家は個人情報が絡んでくるなど簡単に行政側だけの力で解決できるものでもなく難しいところ。

【海藤喜久男委員】 所有者や成約があるのはわかるが、貸したい人がそれを活かす方策があればいいのではと考える。人減っていくのが問題なので、人を増やす方策の中で空き家対策について考えていくことができればと考える。

【佐藤道子委員】 人を増やすということも考えて、空き家・空き店舗など使えるものについての対策や、どうにかしたいけど自分でできない方への支援など、もっとスムーズにわかりやすくできたらいいと思う。

【佐藤あゆ子委員】 去年の広報に踏み込んだものがあって、必要な情報が掲載されていたので、継続的にPRしていくことが必要。

【佐藤正義委員】 うちの集落では広報をコピーして必要な方に送付した。登録した方もいた。

【高橋義夫委員】 農業委員会でも制度が変わって農地付きの空き家も利用できるようになったのでそこもアピールしてほしい。

【長南久良委員】 優良物件を重点的にアピールして売却に進められないのか。

【佐藤正義委員】 なかなか情報がないのでは。空き家の持ち主は町にも登録していて、最終的には町からの助成をもらって移住していた。人を増やす施策に移住定住というのがあってやっているんで、更に強化するという言い方を追加することもできるのでは。

【吉田勝紀委員】 私が住んでいる隣の家も貸し出して3回くらい住む人が変わった。場所がいいからすぐ埋まる。町がやるから借り手がいるが、アパート経営者にとっては困る事項。民間のアパートの埋まり具合は役場では把握していないとのこと。実際に地域外から定住する人が増えていけばいいと思う。民間のアパートについても家賃補助等をやれば地域外からいらっしゃるのではないかと思う。農地付きの借家はいいと思う。古民家など、人気があるようだ。

【佐藤正義委員】 (5) の提言はいい内容だと思う。意見書としてはこのくらいにとどめておくのがいいのではないか。

【佐藤道子委員】 この文章には今まで皆さんから出された意見が反映されていると思うので、これでよいのではないか。(2) (4) についてはこのままでよいか。

【佐藤正義委員】 (2) について、「他の要因(コロナ禍)の所為にすることなく」という言い方はどうか自分で出した意見だが、疑問に思ってきた。コロナ禍でもできることの工夫をしていくことが必要なのではないかという意味で書いたもの。

【吉田勝紀委員】 コロナという文字を入れるか入れないかということかと。経験したことがないことが起きているということ。新しい行政の在り方やビジネスを模索していかなければならないと思うので、その点を追記していけばいいのではと思う。

【事務局】 個人的にはコロナという言葉が入ってもよいと思っている。「コロナ禍」と明言した方がよいと思う。

【佐藤あゆ子委員】 その方がわかりやすいと思う。

【佐藤道子委員】 (4) についてはこのままでよいか。

【佐藤正義委員】 わかりやすくしてよい。

【佐藤道子委員】 これに関してはご意見ないようなのでこれで進めさせていただければと思う。

【佐藤正義委員】 (1) とも絡むことだが、この戦略は国の方から助成金をもらうための計画だと思う。

町としては作文する段階で今まである事業を組合せとして作った要綱で、それはそれでよいのだが、ある事業をやろうとした場合は戦略施策の中に関連事業があって、その事業の目標値達成につながっていくはずのもの。いろんな課の事業が組合せになっている。この戦略に基づいて横断的に進めていかないと実現できないのではないか。進捗状況がどうなっているか、実施した取組の具体的な中身などが見えない。年2回くらい各課から実績報告を出し合って何が原因になっているのか検証していく必要があるのではないか。

【佐藤道子委員】 これまでのご意見をまとめて事務局でまとめていただければと思う。

【事務局】 答申の日程が26日（金）となっているため、案を明日のうちに皆さんにお示しします。

5 閉 会 会 長

(20 : 14)